

## 第二外国語では文法学習はどこまで必要か？ —「気づき」の養成の観点から—

2009年12月5日  
獨協大学大学院外国語学研究科・外国語学部共催シンポジウム  
外国語教育の理論と実践 一語彙・文法教育を中心に—

慶應義塾大学  
境 一三

### 問題提起

- 学校教育の究極的な目的は、自律的学習者の養成。
- 日本で行われている「文法を仕上げる」タイプの授業は、学校教育の目的と合致しないのではないか？
- ここでの議論は、文学部や外国語学部で言語を専攻する場合を除外する。その他の学部等で行われる第二外国語の教育を対象とする。

## 知識基盤社会における教育機関の役割

- 現代社会＝知識基盤社会
- 知は毎日更新される
- 知的カノンの不在
- 生涯にわたって学習できる力が必要
- 学校などの教育機関の使命は自律的学習者の養成
- 言語教育の使命は自律的言語学習者の養成

## 文法とは何か？

- sprachwissenschaftliche (言語学的) / pädagogische (教育的) / psycholinguistische (心理言語学的) Grammatik
- 教育(学校)文法 vs. 学習者文法
- 文法知識 vs. 文法能力
- 学校で教えられている文法は、言語学的文法のみならず、可能な教育文法の一部に過ぎない。

## 日本のドイツ語教育における文法教育

- 「現在の日本のドイツ語教育を省みるとき、文法知識を一括して、学習者の頭に中に移行させる作業に甘んじている傾向があることも否定できない。知識 (Wissen) が運用能力 (Können) へと質的に転換することの重要性を十分認識すること、学習者自身の言語観や学習観、学習ストラテジーなどを把握すること、学習者同士の学びを観察し、教師自身の自己評価のあり方についても検討を重ねることなど多くの課題が指摘された。」  
林明子 (2008, 77-78)

## (初歩の) 言語学習 = 文法学習 ?

- 学校文法の学習 = (初歩の) 外国語学習のすべて ?
- 学校文法の学習 = 外国語学習の基礎 ?
- 言語学習の基礎 = 文法、語彙、音声
- このシンポジウムでも文法と語彙は扱われているが、音声はどこに ?

### 「ドイツ語は難しい！」

- つまらない文法の授業
- 使用場面も、コンテキストもなく、それがどのように使われるか(いかなる言語機能を持つか)も分からず、自分にとっての重要性も感じられない「文法知」
- Wissen (知)がいつまで経っても Können (能力)に転化しない指導(無指導)

### 学校文法にしがみつく授業

- 教科書を易しくする努力 → 授業時間の減少とともに薄っぺらになっていく教科書 → より分かりにくく
- 悪循環(Teufelskreis)
- 文法の次は訳読？
- そこで行われている文法訳読法による授業は他の方法との比較の上で選択されたものなのか？
- 文法訳読による授業しかできない教師は、教師失格！

## 単純文法訳読派の誤解

「( )で教えている人で、授業の一部として訳読を利用して  
いる人はかなりの数にのぼると考えられる。そして、(中略)  
リーディングの授業で、文法訳読しかしない( )教師もま  
だまだ少なくない。その中にもいろいろ試した結果として、文  
法訳読が自分の教えている生徒に最も適した方法だと判断  
を下して、この方法のみを使っている場合は、取り敢えずそ  
れでよいのではないだろうかとは私は考える。しかし、問題は  
(中略)私が「単純文法訳読派」と呼ぼうとしている人々であ  
る。この人たちは他の方法を知らず、多分、自分たちが( )  
生だったときに習った方法ということをも唯一の理由として、  
もっぱら文法訳読で通している人達のことである。」  
金谷憲(2002, 119)発表者改変

## 知の構成

- 知は経験(言語活動)を通して、与えられた刺激が内在する既知の情報(知識)と結びつくことによって、新たに構成される。
- 同じ刺激によっても、構成される知は個々に異なる。
- 言語学習には学習者に意味のある言語活動が必須。(欧州評議会の「行動中心主義」)
- 実際に使用される場が必要。(オーセンティックな言語使用)

### 文法観の転換が必要

- 文法を、記述され整理された外的産物としてではなく、学習者の中に育つ、言語活動を支える力と考える。
- 学習者が文法を獲得していく能力をいかに養成するかが課題。
- 学習の中で、学習ストラテジーや学習スキルだけでなく、学習と言語に対する「気づき」を養成する。
- 文法学習 vs. 文法獲得

### ドイツ語文法の「謎」

- なんで語尾が違うの？考えてご覧！
  - -e, -er / -em, -en
  - 音声教育と文法教育の結合
- 格をどのように提示するか？
  - 具体的場面と文が与えられ、意味のある言語活動が行われるとすれば → Nominativ > Akkusativ > Dativ > Genitiv
- なんで「性」があるの？考えてご覧！
  - 文法性はどうやって決まるの？

## Diktatの重要性

- 知らないテキストをdiktierenする
  - -e / -er の混同は最も頻度の高い間違い
  - 意識を語尾に向ける
  - どうしてその語尾になるかを考える

## 学習者の問題発見

- 学生A: 新しい単語がたくさん出てきて大変そうです。また男性名詞・中性名詞・女性名詞の区別が面倒そうですね。「～zimmerは全て男性名詞」みたいに単純化してくれないのかなあ。歴史的な経緯で分けられているんでしょうけどついついそう思いました。
- 教員: いいところに気づきましたね。das Wohnzimmer, das Schlafzimmer, das Arbeitszimmer, das Kinderzimmer, das Badezimmer などから何かが見えてきませんか？



## プロセス

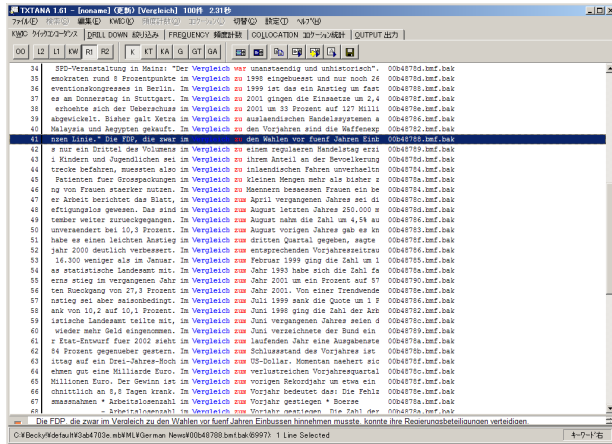
- 学生Aは、その日に学習したことを「振り返り」、ドイツ語の複合名詞の性には何らかの規則性があるのではないかと「気づいた」。
- それをフォーラムでクラスメートに公開した(「協調学習」)。
- 筆者の反応は、例を示すことで帰納的な「規則の発見」を誘導することであった。
- 次の授業時間に筆者が複合語の性の決定法を説明するための導入となった。
- フォーラム上では明示的な学習者間の協調作業はなかったが、クラスでのフォローアップを含めて、全体としてみた時には協調学習が成功したと言えるのではないか。

## 文法規則を発見する

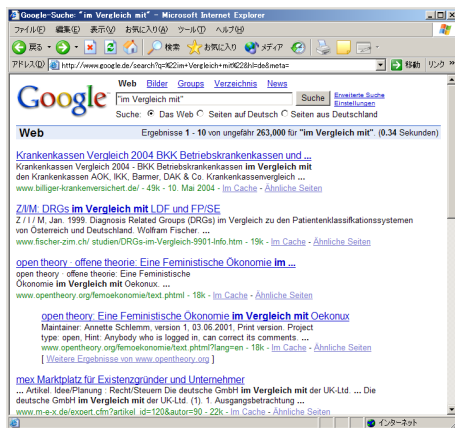
- Data-driven Learning
- Corpus Linguistics の教育への応用
- Collocationなどを自分で探す
- Concordancer を使う力を付ける
  - ドイツ語では岩崎克巳(広島大学)などを参照



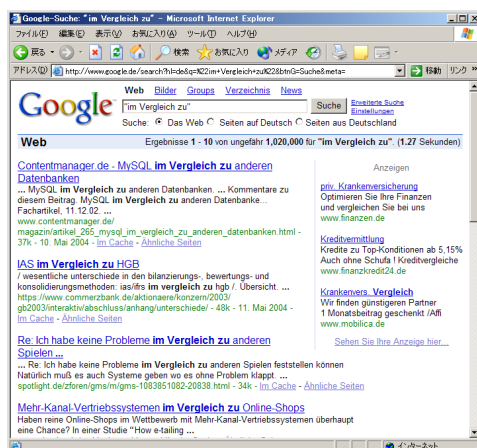
# Textanaの例



# Google の例 1)



## Googleの例 2)



## 自分たちで文法を書いてみる

- 学校文法教科書を使っていない場合、自分たちで文法をまとめる作業を行ってみる。  
cf. „Tangram“ (Hueber)
- グループで話し合いながら、自分の知っている英文法を土台に書いてみる。
- Wiki など ICT を活用する。
- 発表者の授業(2003年度)での活動紹介。

**HEFT FÜNF 日常生活の重要表現 †**

3格……Dativ †

「OOは……」というのが1格、「OOを……」というのが4格、そして「OOに……」という場合に使うのが3格。

例: Papa, schau mal: Zigaretten! Kaufst du **mir** eine? パパ、見てみて、タバコだよ！僕に一箱買ってくれない？

親に公然とタバコをねだるとはかなりませたガキであるが、ここに使われている“mir”というのが「僕に、私に」を意味する一人称代名詞の3格の形である。こういった3格—Dativについて表にまとめると、こうなる。

人称代名詞の3格 †

日本語	私	私達	あなた	あんた	あんた達	彼	彼女	彼ら
1格	ich	wir	Sie	du	ihr	er	sie	sie
3格	mir	uns	Ihnen	dir	euch	ihm	ihr	ihnen

人称代名詞の3格を覚えたところで、以下のような買い物中の親子の会話が理解できる。  
父親と子供二人が登場。Va=Vater(r, -ater)=父, K1,K2=Kind 1, Kind 2=子供1, 子供2の意

K1	Papa, kaufst du <b>uns</b> ein Eis?	パパ、僕らにアイス買ってくれない？
Va	Nein, ich kaufe <b>euch</b> heute kein Eis.	いいや、今日はお前達にはアイスは買ってやらないぞ。
K1	Kaufst du <b>mir</b> einen Luftballon?	じゃあ僕に風船買ってよ。
Va	Nein, ich kaufe <b>dir</b> heute auch keinen Luftballon.	だめだ。今日はお前に風船も買ってやらない。
K2	Schenkst du mir <b>das</b> Auto zum Geburtstag?	このクルマ(のおもちゃ)誕生日に僕にくれない？
Va	Gebt ihr <b>mir</b> mal eine Schachtel Zigaretten?	お前達、ちょっと私にタバコを一箱取ってくれないか？
K1	Ich gebe <b>ihm</b> das Feuerzeug!	このライター(彼(お父さん))にあげる。
Va	Du gibst <b>ihr</b> jetzt sofort das Feuerzeug zurück!	おい、そのライターを今すぐ彼女(もう一人の子供)に返しなさい。
-	Der Vater kauft <b>ihnen</b> keine Süßigkeiten.	お父さんは彼ら(子供達)にお菓子を買ってやりません。

## 文法力の定着

- 気づきを育て、学ぶ力を付けるのが言語教育の核心。
- 読むこと、聞くこと、書くことによって気づき、確認し、知を定着させ、内的な力とする。

## 留保

- 言語構造に関心がある学習者が学校文法を一気に学ぶことは何ら問題ない。「どんな言葉だろう」という知的欲求に応えることになる。
- 学び方は動機によって異なる。
- しかし、言語構造に関心のない学習者に、「いつ使えるようになるか分からないが、その時のために今は我慢して勉強しなさい」という「知識先行型」は否定されるべき。

## 文献

- Tschirner, E. (1997). Wissen und Bewußtheit im Erwerb mündlicher fremdsprachlicher Kompetenz. In S. Demme & G. Henrici (Hrsg.), Dem Fremdsprachenerwerb auf der Spur: Dokumentationen des Forschungskolloquiums "Fremd- und Zweitsprachenerwerbsforschung." Jena: Universitätsdruck, S. 101-13.
- 金谷憲(2002)『英語授業改善のための処方箋』大修館書店
- 林明子(2008)「日本独文学会第13回教授法ゼミナール参加報告」、『ドイツ語教育』13号、73-79頁、日本独文学会ドイツ語教育部会

Danke schön!

- ご質問や資料請求はこちらに。
- E-Mail: [skazumi@hc.cc.keio.ac.jp](mailto:skazumi@hc.cc.keio.ac.jp)
- Web: <http://web.hc.keio.ac.jp/~skazumi/>